

令和5年度県内病院におけるタスク・シフト/シェアに関する調査結果

看護師職能 I 委員会

I. 調査目的

県内病院においてタスク・シフト/シェアについて現状を把握し、活動の基礎資料および施策に活用することを目的とする。

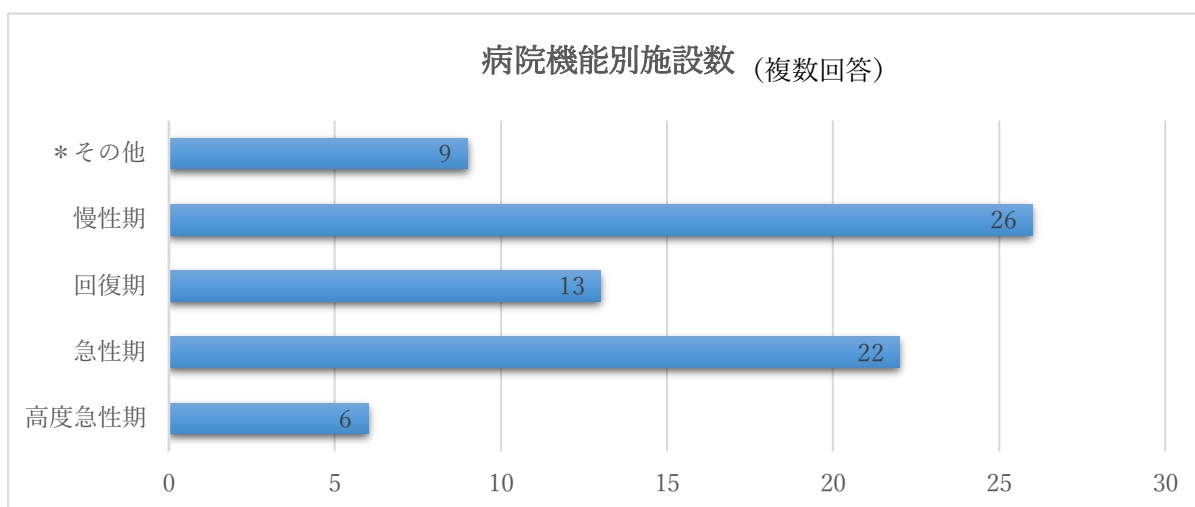
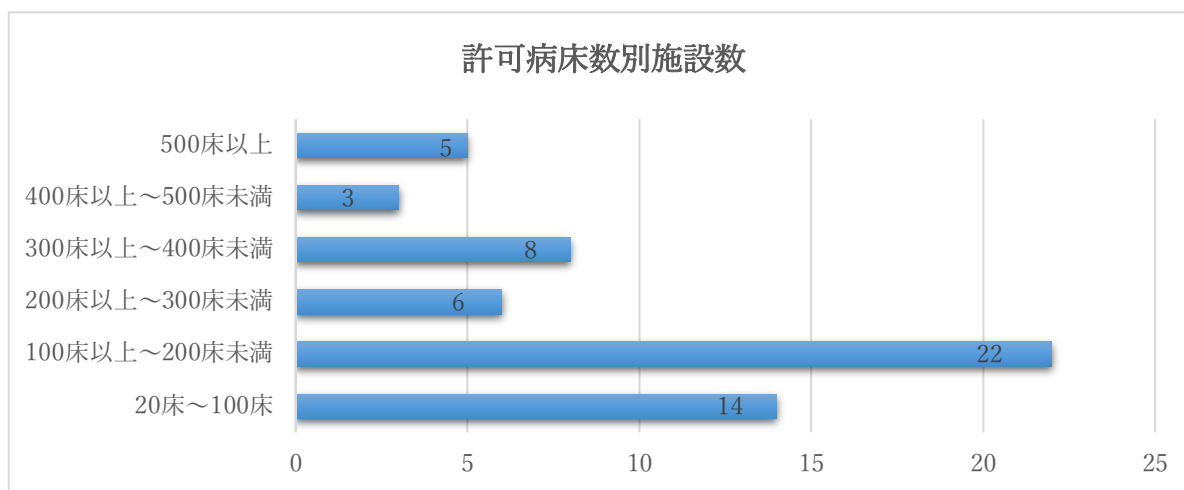
II. 調査方法

1. 調査期間: 令和5年 8 月 4 日～8 月 21 日
2. 調査対象: 県内67病院の看護管理者に対して調査を実施
3. 調査内容: アンケート調査(郵送配布・回収) 単純集計と記述集計

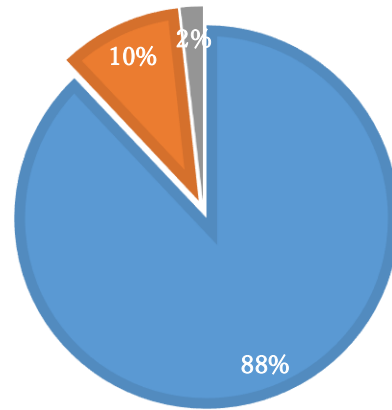
III. 回収率: 86.6% (58 施設)

IV. 調査結果

1. 病院の属性 (n=58)

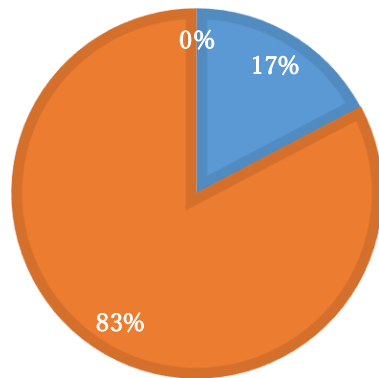


「タスク・シフト/シェアに関するガイドライン及び活動ガイド」
を知っているか



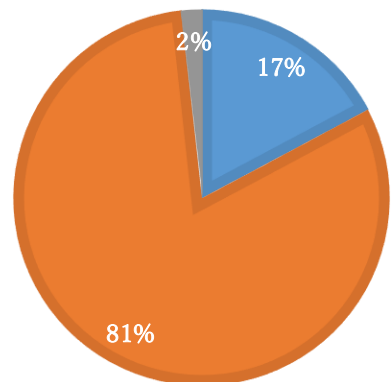
■ 知っている ■ 知らない ■ 無回答

5) タスクシフト/シェアに関する委員会の有無



■ ある ■ ない ■ 無回答

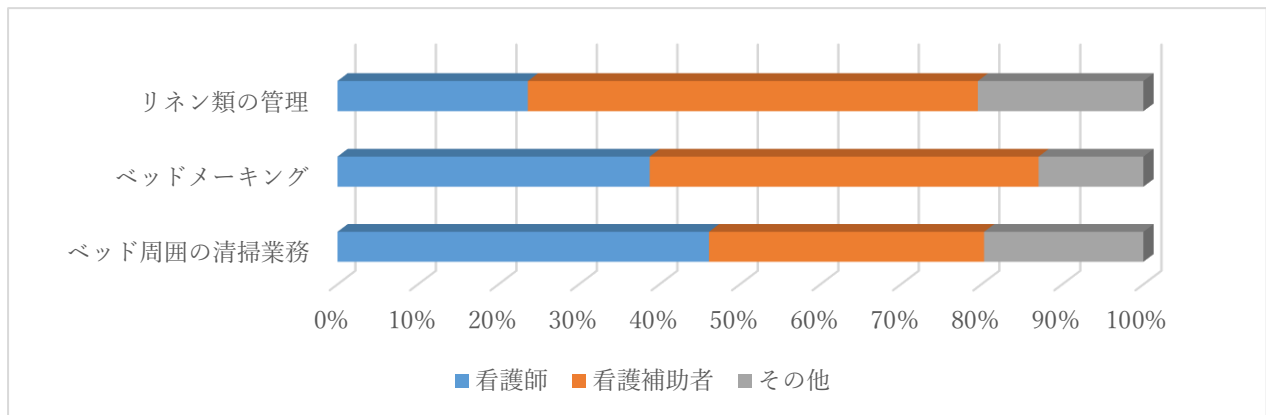
6) タスクシフト/シェアを行う際の教育及び研修の有無



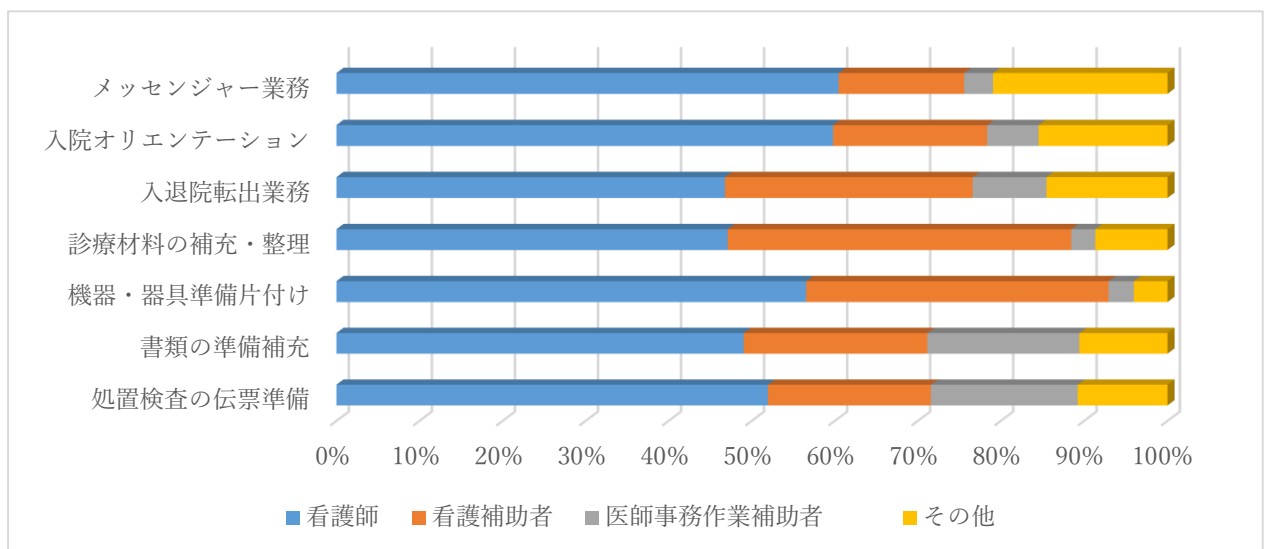
■ ある ■ ない ■ 無回答

2. 業務への職種別実施状況

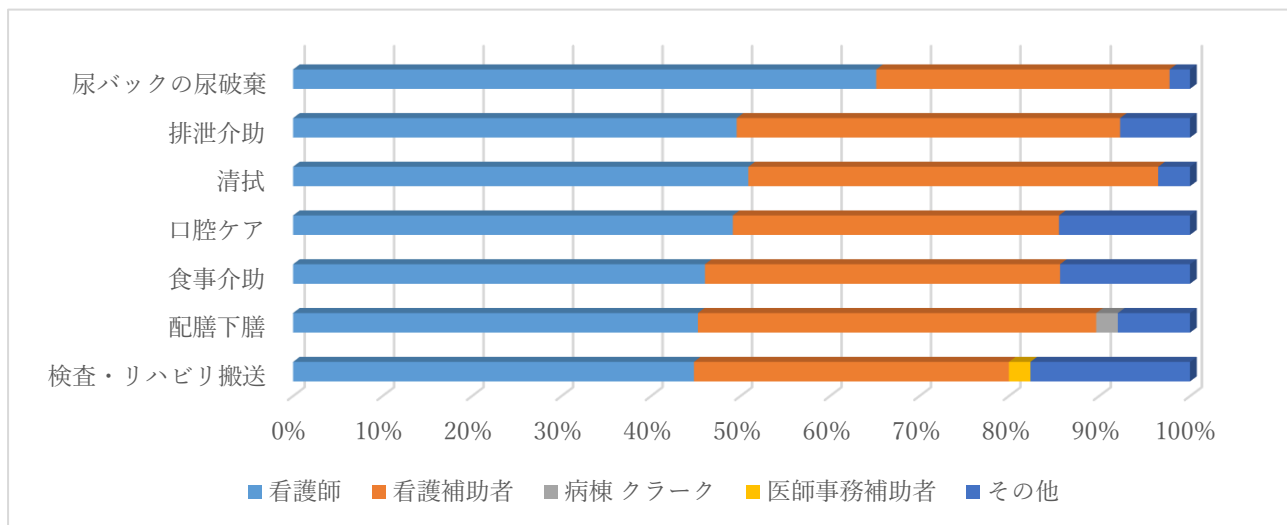
1) 周辺業務: 生活環境



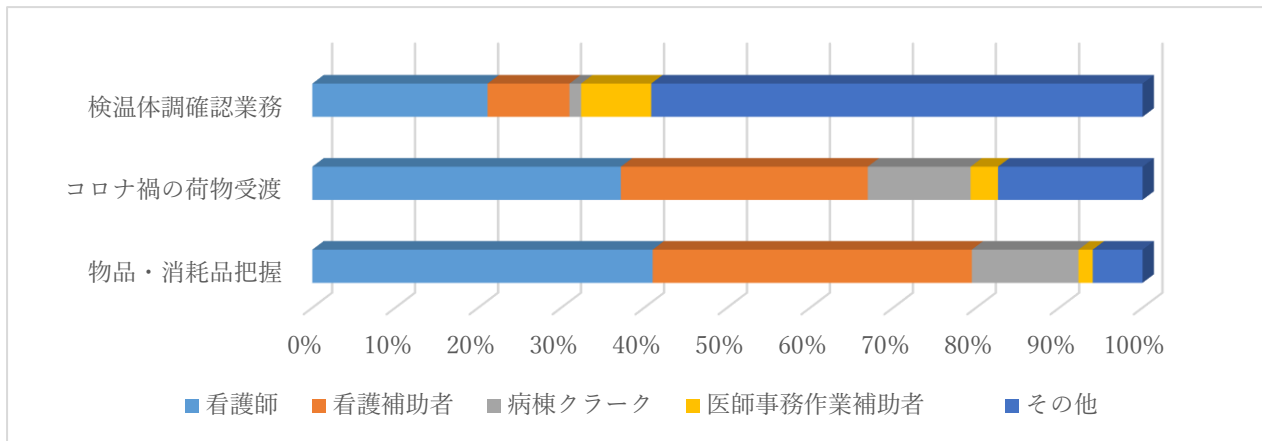
2) 周辺業務: 診療に係る業務



3) 直接ケア: 生活環境に係る業務



4)その他の業務



5)その他の職種が実施している業務の詳細について

【生活環境に関わる業務】

1)環境整備清掃業務

清掃担当、介護助手、看護助手、委託業者、営繕係、補助員、療養介助員、看護福祉士

2)ベッドメイキング

委託業者、看護助手、介護助手、衛生婦、介護福祉士、保育士、アシストワーカー療養介助員

3)リネン管理

委託業者、看護助手、介護助手、事務員、総務、看護クラーク

【診療に関わる周辺業務】

1)処置・検査伝票準備

検査技師、病棟クラーク、事務職員、医療クラーク

2)種類の準備補充

看護助手、医療事務、病棟クラーク、事務職員、医療クラーク、看護事務補助者、病棟事務

3)機器準備片付け

看護助手、介護助手、ME、放射線技師、検査技師、リハビリ、リース対応

4)診療材料管理

看護助手、介護助手、病棟クラーク、委託業者、資材課、資材係、医療クラーク

5)入退院転出業務

看護助手、介護助手、病棟クラーク、MSW,PSW、入退院支援者、相談員、医療事務、リハビリ、保育士、医療クラーク、看護事務補助員

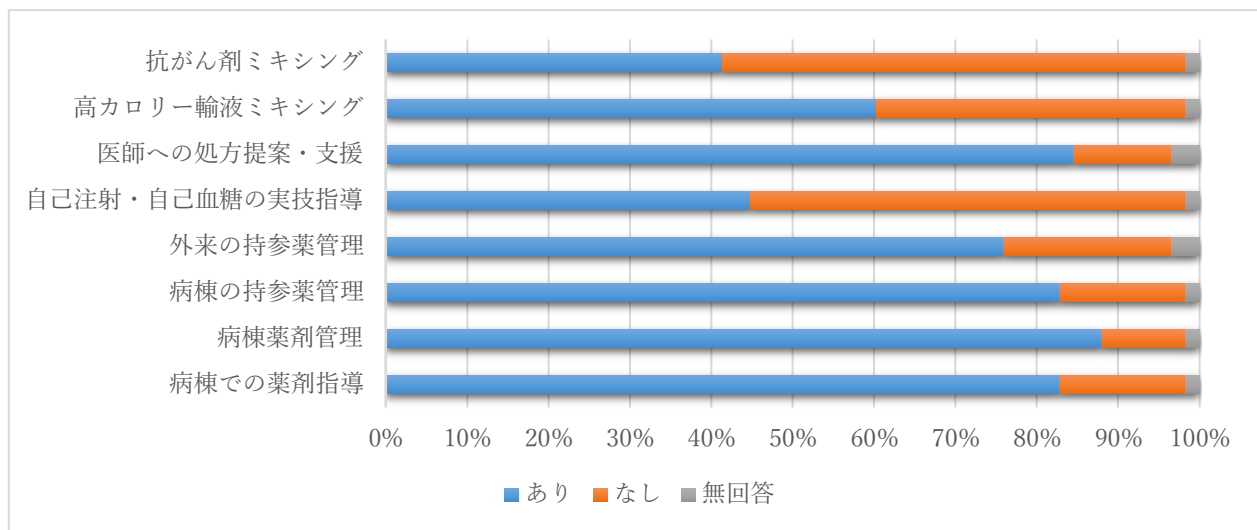
6)入院オリエンテーション

MSW、医事課、相談員、病棟クラーク、リハビリ、入退院支援者、保育士、事務、PSW、病棟事業務補助者

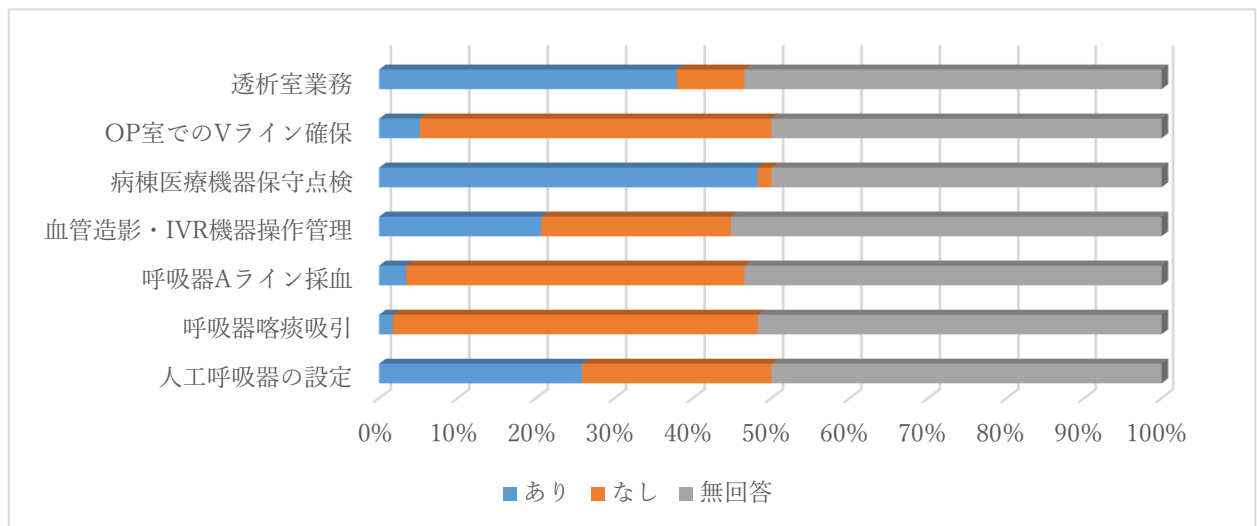
7)メッセージ業務

看護助手、介護助手、看護師、事務、委託業者、障害者雇用、業務支援室、療養介助員

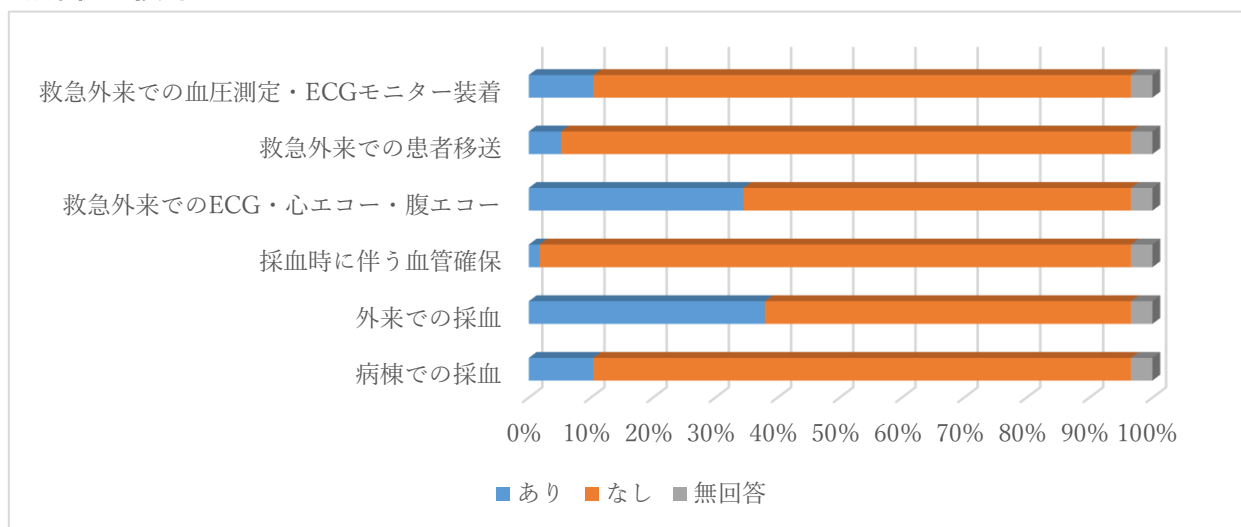
3. 薬剤師とのタスク・シフト/シェアについて



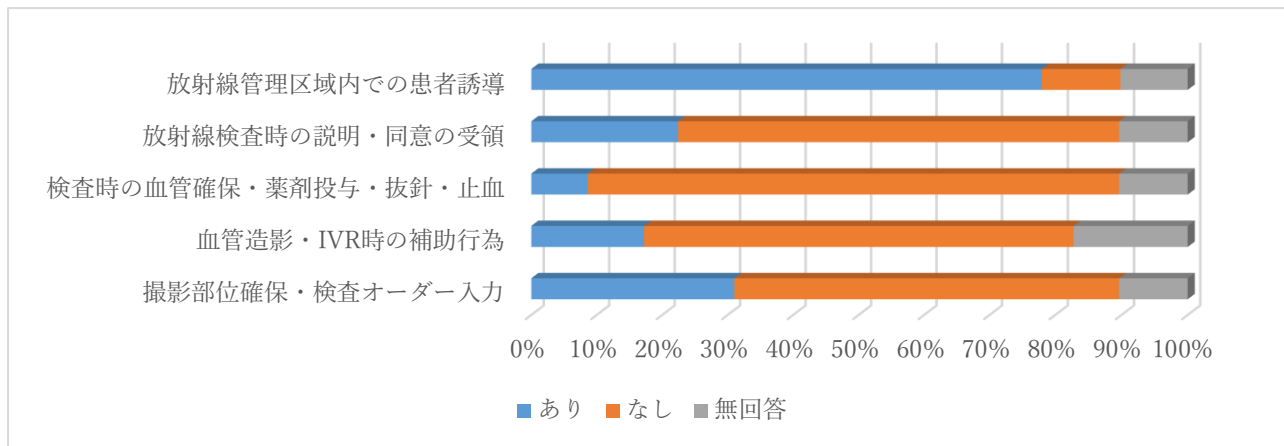
4. 臨床工学士とのタスク・シフト/シェアについて



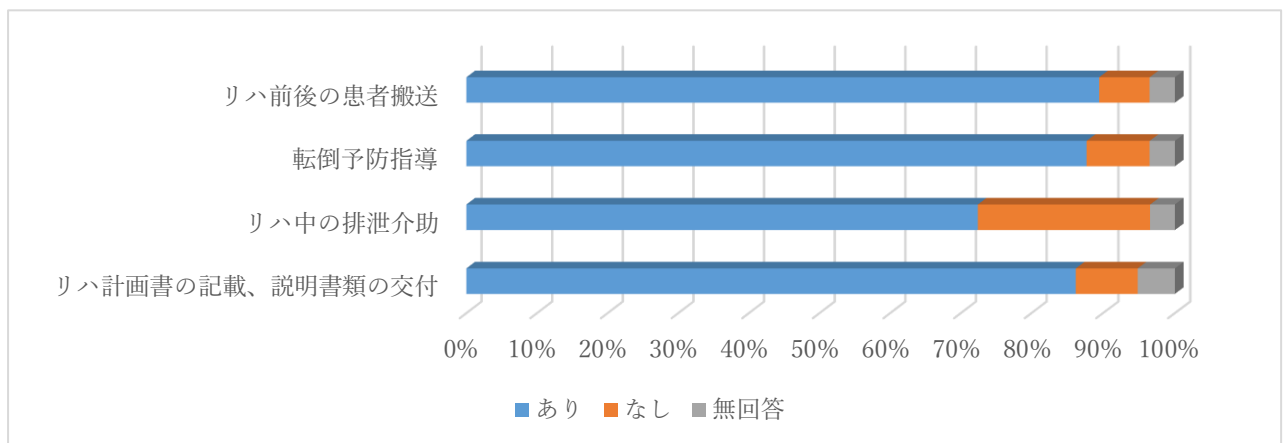
5. 臨床検査技師とのタスク・シフト/シェアについて



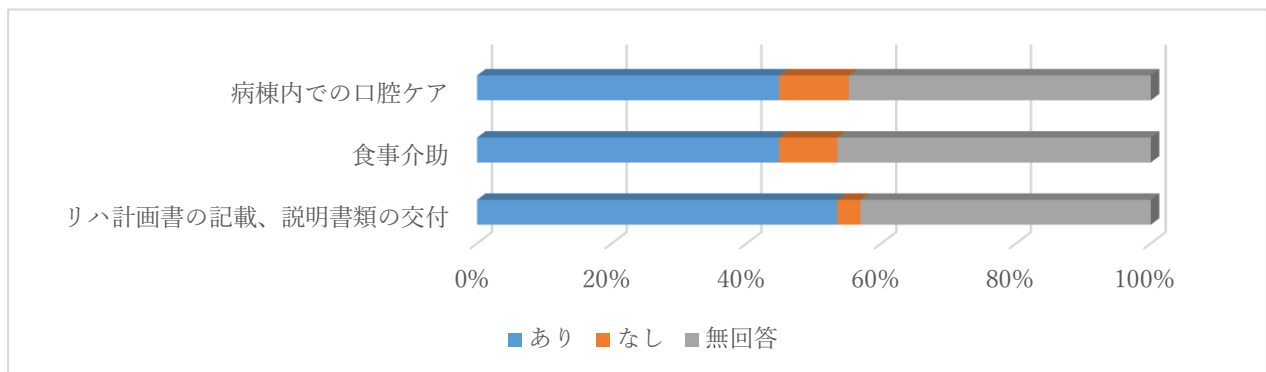
6. 診療放射線技師とのタスク・シフト/シェアについて



7. 理学療法士・作業療法士とのタスク・シフト/シェアについて



8. 言語聴覚士とのタスク・シフト/シェアについて



9. 救急救命士について

救急救命士が配属されている病院は1施設のみであった。

実施している業務は救急外来での患者受入要請電話対応と救急外来での検査、入院時の患者搬送介助であった。その他診療補助、処置介助、検体搬送、エンゼルケアであった。

V. まとめ

- ・回答病院は 100 床以上から 200 床未満の病院が多く、次いで 20 床～100 床の病院だった。
- ・病院の機能は慢性期病院が多くその他は精神科病院だった。
- ・職員では看護師と看護補助者の占める割合が多かった。
- ・その他の職種では同じ業務内容を行っていても病院によって呼び名が違っていた。
- ・97%の病院ではタスク・シフト/シェアに関するガイドライン及び活動ガイドを知っていた。
- ・タスク・シフト/シェアについて組織的に検討する委員会がある施設の割合は 10 施設(17%)であった。
- ・たすく・シフト/シェアを行うための教育や研修があるとする施設は 10(17%)施設であった。
- ・看護業務では、看護補助者へタスク・シフト/シェアされている業務が他職種より多かった。
- ・周辺業務の診療に係る業務では、事務的業務を看護師が行っている割合が高かった。
- ・薬剤師や理学療法士・作業療法士・言語聴覚士と業務のタスク・シフト/シェアが行われていた。
- ・その他の職種では、事務部門や医療クラークとタスク・シフト/シェアが行われていた。
- ・コロナ禍での対応では、総務や事務部、シルバー人材等の職種とタスク・シフト/シェアをしていた。

VI. 課題

- 1.多職種がタスク・シフト/シェアの共通認識をもち組織全体での取り組みを推進すること
- 2.タスク・シフト/シェアに向けた業務整理と職種間における業務内容を検討すること
- 3.他職種とのタスク・シフト/シェアについて正しい知識と理解のための教育体制を構築すること